
不具合管理テンプレート仕様書

目次

1. テンプレート利用の前提	2
1.1 対象	2
1.2 役割	2
1.3 重要な属性	2
1.3.1 不具合のレベルと運用への影響	2
1.3.2 不具合と変更要求	3
1.4 プロセス	3
1.5 ステータス	4
2. テンプレートの項目	5
2.1 入力項目	5
2.2 入力方法および属性	6
2.3 他の属性	7
2.4 入力情報の補足	8
3. トラッキングユニットの設定	9
3.1 メール送信一覧	9
3.1.1 起票	9
3.1.2 調査中	9
3.1.3 調査完了	9
3.1.4 修正指示済み	9
3.1.5 修正中	10
3.1.6 修正完了	10
3.1.7 確認中	10
3.1.8 確認完了	10
3.1.9 クローズ	11
3.2 権限一覧	11
3.2.1 ステータス権限一覧	11
3.2.2 機能権限一覧	11
3.3 ステータス毎の必須入力	12
3.4 ステータス毎の表示ON/OFF	13
3.5 サンプル選択肢	14

1. テンプレート利用の前提

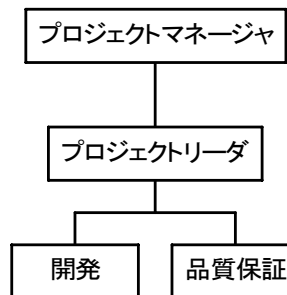
不具合管理のテンプレートを利用する上での前提事項についてまとめる。本仕様書で規定するテンプレートはこの記述内容で利用されることを前提とする。

1.1 対象

本仕様書で扱う「不具合」とは、テストの実行結果がNGであった場合の現象を指す。客先から通知された障害の処置は「障害管理」として別途扱う。

1.2 役割

本仕様書では以下に示す階層構造のチームを想定する。



各不具合の対処はプロジェクトリーダーが割り当てた担当がその責務を負う。各不具合に対するステータス管理の責務はプロジェクトリーダーが負う。プロジェクトに対するスケジュール/コスト/品質への影響はプロジェクトマネージャがその責務を負う。品質保証はプロジェクトとして不具合管理が機能するようにプロジェクトマネージャやプロジェクトリーダーに働きかける。

サブシステム毎にチームを作成する場合は、各チームにチームリーダーをおくものとする。

1.3 重要な属性

不具合管理を実行する上で重要な属性に関して説明する。

1.3.1 不具合のレベルと運用への影響

各不具合のレベルの定義を示す。不具合の管理は不具合レベルに基づいて定める優先順位に従う。また、レベルとは別に運用への影響の有無を不具合の管理項目として追加する。運用への影響は「有り」または「無し」のどちらかが選択される。不具合への対処は、レベルと運用への影響を考慮して決める。

■ レベル1

- システムダウンを起こす致命的なもの。

■ レベル2

- 機能を実現していない（設計の誤り、プログラムエラー）。

■ レベル3

- 機能は実現しているが、仕様通りでない（画面のレイアウトが仕様通りでない、性能要求を満たしていない等）。

■ レベル4

- 機能は実現しており、仕様も満足しているが、仕様には明記されていない使い勝手が悪い等の気がかりな点がある。テストの結果はOKとなる。

1.3.2 不具合と変更要求

レベル4の不具合のうち、仕様変更や大幅な実装変更を伴うものに関しては、変更要求管理に基づいて対処する。変更要求管理テンプレート仕様書を参照。

1.4 プロセス

不具合の発見から完了までのプロセスを以下に示す。不具合のステータスとの対応を明確にするため、ステータスは「」付きで示す。

■ 不具合の発見

- テスト担当者が、テスト結果と期待値を比較し予想結果と相違する場合、不具合の発見とする。

■ 不具合の記録と通知

- 不具合を発見したテスト担当者は直ちに不具合を記録する。再現可能な形で、報告しなくてはならない。
- 記録された不具合は、xDTSにより関係者にメールで通知される。
- 不具合のステータスは「起票」となる。

■ 調査担当の決定

- プロジェクトリーダーは、通知に基づき調査担当者を決定し、不具合のステータスを「調査中」にする。

■ 現象の確認と原因の調査

- 調査担当者は、報告された現象の確認を行う。書かれた情報から再現を試みる。発見者（テスト担当者）に確認しないと解決できない場合は、追記を依頼すること。

■ 調査結果の報告

- 調査担当者は調査結果を報告する。現象が再現できなかった場合は、理由を記述した上でステータスを一旦「調査完了」にする。プロジェクトリーダーは、再現せずに調査完了となっている不具合に関する対処を適宜指示する。
- なお、本不具合及び、誤りを生じた原因、修正を行った場合の影響範囲についても併せて報告すること。
- プロジェクトリーダーは調査結果に基づき対処を決定する。不具合のレベルが4のものに関しては後述する不具合と変更要求に従うこと。

■ 対処方法と時期の決定

- プロジェクトリーダーは、調査結果に基づき修正が必要な不具合に関して修正完了予定日、修正担当者、確認者、リリースバージョンを決定し、ステータスを「修正指示済み」とする。
- プロジェクトリーダーは調査結果から修正内容のレビューが必要と判断した場合は、別途修正内容の検討を指示する。必要に応じてレビューを実施。その結果を不具合の修正内容に対する設計指示として不具合修正を指示し、ステータスを「修正指示済み」とする。
- 修正が複数のサブシステム(チーム)に跨る場合は、チームリーダー間で適宜調整すること。
- 対処の内容は、影響範囲や緊急度によって、プロジェクトリーダーが判断する。ただし、発見された不具合のためにテストの続行が不可能な場合、テストの効率を下げる場合などは、プロジェクトマネージャから、直に対処を開始するよう要請する場合がある。
- 修正を要する不具合のうち、仕様変更を要するものは変更要求管理手順に従う。その場合、不具合のステータスは「調査完了」とし、変更要求管理手順の終了を待つ。

■ 修正とテスト

- 修正担当者はステータスを「修正中」に変更し修正を行う。
 - レビュー及び必要なテストを実施した上で、不具合が解消されたことを確認する。その上で、ステータスを「修正完了」に変更し、修正が終了したことを報告する。
 - 他に対する影響がある場合、修正の適用は慎重に定める。
- 修正の確認
 - 確認担当者（テスト担当者）は、不具合のステータスを「確認中」に変更し、不具合が発生しないことを再テストにより確認する。確認が出来た時点でステータスを「確認完了」に変更する。
 - 再テストにより同じ不具合が発生した場合は、ステータスを起票に戻す。
 - 不具合のクローズ
 - プロジェクトリーダーは、修正を確認の上、不具合をクローズする。

1.5 ステータス

不具合のステータスを以下のように定義する。

- 起票
 - 発生した不具合が登録された状態
 - 不具合の修正確認において再度不具合が発生した状態（差し戻しされた状態）
- 調査中
 - 不具合の原因を調査している状態
- 調査完了
 - 不具合の原因と影響範囲が明確になった状態
- 修正指示済み
 - 不具合の修正が指示された状態
- 修正中
 - 不具合の修正を実施している状態
- 修正完了
 - 不具合の修正が完了した状態
 - 修正者の単体テストが終了して、テスト担当者に引渡し可能な状態
- 確認中
 - テスト担当者により再テストを実施している状態
- 確認完了
 - テスト担当者により再テストが終了しOKの状態。
- クローズ
 - プロジェクトリーダーにより承認された状態

2. テンプレートの項目

テンプレートの項目を以下に示す。

2.1 入力項目

番号	項目	内容	備考
1	ステータス	不具合の状態を示す。起票、調査中、調査完了、修正指示済み、修正中、修正完了、確認中、確認完了、クローズのいずれか。	
2	発行番号	不具合の番号	
3	起票日	起票された日	
4	起票者	起票した人	
5	発生日	不具合が発生した日付	
6	発見者	不具合の発見者。起票者と相違する場合に記入する。	
7	カテゴリ	テストの種類。サンプルを参照。	
8	テスト項目No	不具合を発見した際に実行していたテストのID	
9	サブシステム	サンプルを参照。	
10	不具合レベル	不具合のレベル。レベル1から4を選択	
11	運用への影響	運用への影響の有無を示す。有りまたは無しから選択	
12	構成バージョン	仕様のベースラインを示すバージョン。例：V1.1.0	
13	アプリケーションバージョン	不具合が発生した際のアプリケーションのバージョン。例：V1.1.1	
14	件名	不具合の内容を明示した名称	
15	詳細	不具合の現象の詳細	
16	再現方法	不具合を再現させる方法	
17	調査完了予定日	調査を完了させる予定日	
18	調査主担当者	調査の担当者もしくは取りまとめ	
19	調査担当者	調査の担当者（複数設定可）	
20	調査実績工数(人時)	調査に要した工数。調査を担当した全ての人の調査時間を合計する。7.5のように時間(H)単位	
21	調査結果	調査した結果	
22	影響範囲	不具合の原因を修正する場合の影響範囲	
23	種類	不具合の種類。サンプルを参照。	
24	潜在		
25	対処	不具合の修正の有無。サンプルを参照。	
26	対処内容	対処の詳細を記述。修正しない場合はその理由を記述する。	
27	仕様変更有無	仕様変更の有無。有り、無しを選択	
28	修正完了予定日	修正を完了させる予定日	
29	修正主担当者	修正の担当者もしくは取りまとめ	
30	修正担当者	修正の担当者（複数設定可）	
31	修正対象	修正した対象。ファイル名、仕様書名など	
32	修正内容	修正した内容	
33	修正実績工数(人時)	修正に要した工数。修正を担当した全ての人の修正時間を合計する。7.5Hのように時間(H)単位	
34	確認者	修正を確認する担当者	
35	リリースバージョン	修正した不具合を取り込むバージョン。例：V1.1.2	
36	関連元不具合	元となった不具合がある場合は、その不具合の発行番号等を記入	
37	不具合原因	不具合の原因。サンプル参照。	
38	不具合原因分析	不具合原因の分析結果。自明なことを記述するのではな	

		く、不具合が発生した本質的な問題点について分析した結果を記述.	
39	添付ファイル	ログや画面のダンプなどの補足情報	
40	完了承認日	不具合をクローズした日	
41	完了承認者	不具合をクローズした人	
42	最終更新者	レポートの最終更新者	
43	最終更新日時	レポートの最終更新日時	

2.2 入力方法および属性

番号	項目	入力方法	入力長	表示桁数	備考
1	ステータス	リスト	—	—	
2	発行番号	—	—	—	
3	起票日	—	—	—	
4	起票者	—	—	—	
5	発生日	日付	—	20	
6	発見者	ユーザリスト	—	—	
7	カテゴリ	リスト	—	—	
8	テスト項目No	テキスト	256	40	
9	サブシステム	チェックボックス	—	—	
10	不具合レベル	リスト	—	—	
11	運用への影響	リスト	—	—	
12	構成バージョン	テキスト	256	40	
13	アプリケーションバージョン	テキスト	256	40	
14	件名	テキスト	256	60	
15	詳細	テキストエリア	10240	80×5	
16	再現方法	テキストエリア	4096	80×5	
17	調査完了予定日	日付	—	20	
18	調査主担当者	ユーザリスト	—	—	
19	調査担当者	ユーザチェックボックス	—	—	
20	調査実績工数(人時)	実数	—	20	
21	調査結果	テキストエリア	10240	80×5	
22	影響範囲	テキスト	256	60	
23	種類	リスト	—	—	
24	潜在	リスト	—	—	
25	対処	リスト	—	—	
26	対処内容	テキストエリア	10240	80×3	
27	仕様変更有無	リスト	—	—	
28	修正完了予定日	日付	—	20	
29	修正主担当者	ユーザリスト	—	—	
30	修正担当者	ユーザチェックボックス	—	—	
31	修正対象	テキスト	256	60	
32	修正内容	テキストエリア	10240	80×5	
33	修正実績工数(人時)	実数	—	20	
34	確認者	ユーザリスト	—	—	
35	リリースバージョン	テキスト	256	40	
36	関連元不具合	テキスト	256	40	

不具合管理テンプレート仕様書

37	不具合原因	チェックボックス	－	－	
38	不具合原因分析	テキストエリア	4096	80×5	
39	添付ファイル	ファイル	1048576	－	
40	完了承認日	－	－	－	
41	完了承認者	－	－	－	
42	最終更新者	－	－	－	
43	最終更新日時	－	－	－	

2.3 他の属性

番号	項目	順序	検索	集計	自動日付	自動入力	自動計算	備考
1	ステータス	1	○	○				
2	発行番号		○					
3	起票日		○	○				
4	起票者		○	○				
5	発生日	6	○	○				
6	発見者		○	○				
7	カテゴリ		○	○				
8	テスト項目No		○					
9	サブシステム	3	○	○				
10	不具合レベル	5	○	○				
11	運用への影響		○	○				
12	構成バージョン		○					
13	アプリケーションバージョン		○					
14	件名	4	○					
15	詳細		○					
16	再現方法		○					
17	調査完了予定日		○	○				
18	調査主担当者		○	○				
19	調査担当者		○	○				
20	調査実績工数(人時)		○					
21	調査結果		○					
22	影響範囲		○					
23	種類		○	○				
24	潜在		○	○				
25	対処		○	○				
26	対処内容		○					
27	仕様変更有無		○	○				
28	修正完了予定日		○	○				
29	修正主担当者		○	○				
30	修正担当者		○	○				
31	修正対象		○					
32	修正内容		○					
33	修正実績工数(人時)		○					
34	確認者		○	○				
35	リリースバージョン	2	○					
36	関連元不具合		○					
37	不具合原因		○	○				
38	不具合原因分析		○					

39	添付ファイル							
40	完了承認日		○	○				
41	完了承認者		○	○				
42	最終更新者		○	○				
43	最終更新日時		○	○				

2.4 入力情報の補足

入力情報の補足を以下に示す。

不具合原因分析の記述内容

不具合原因分析の記述内容は、重要なデータであり、その記述には注意を払う必要がある。不具合が発生した原因を分析し、その内容を記述する。例えば、実装の誤りの場合は、設計に起因する問題、依存するコンポーネントに起因する問題、言語に起因する問題などの多面的な視点から不具合が発生した原因を分析する。

3. トラッキングユニットの設定

テンプレートを利用したトラッキングユニットの設定例を示す。

3.1 メール送信一覧

レポート作成時、各ステータスで宛先を指定して作業報告をする。該当する場所を○で記述する。

3.1.1 起票

		To	Cc	通知しない
宛先	プロジェクトマネージャ		○	
	プロジェクトリーダー	○		
	開発		○	
	品質保証		○	
件名	【プロジェクト名：システム名： 】 ステータス：発行番号：件名：			
本文	発生日，発見者，カテゴリ，不具合レベル，アプリケーションバージョン，詳細			

3.1.2 調査中

		To	Cc	通知しない
宛先	プロジェクトマネージャ			○
	プロジェクトリーダー			○
	開発			○
	品質保証			○
件名	【プロジェクト名：システム名： 】 ステータス：発行番号：件名：			
本文				

3.1.3 調査完了

		To	Cc	通知しない
宛先	プロジェクトマネージャ		○	
	プロジェクトリーダー	○		
	開発		○	
	品質保証		○	
件名	【プロジェクト名：システム名： 】 ステータス：発行番号：件名：			
本文	調査結果，種類，潜在			

3.1.4 修正指示済み

不具合管理テンプレート仕様書

		To	Cc	通知しない
宛先	プロジェクトマネージャ		○	
	プロジェクトリーダー	○		
	開発		○	
	品質保証		○	
件名	【プロジェクト名：システム名： 】 ステータス：発行番号：件名：			
本文	修正完了予定日，修正主担当者，リリースバージョン			

3.1.5 修正中

		To	Cc	通知しない
宛先	プロジェクトマネージャ			○
	プロジェクトリーダー			○
	開発			○
	品質保証			○
件名	【プロジェクト名：システム名： 】 ステータス：発行番号：件名：			
本文				

3.1.6 修正完了

		To	Cc	通知しない
宛先	プロジェクトマネージャ		○	
	プロジェクトリーダー	○		
	開発		○	
	品質保証		○	
件名	【プロジェクト名：システム名： 】 ステータス：発行番号：件名：			
本文	修正主担当，修正対象，修正内容			

3.1.7 確認中

		To	Cc	通知しない
宛先	プロジェクトマネージャ			○
	プロジェクトリーダー			○
	開発			○
	品質保証			○
件名	【プロジェクト名：システム名： 】 ステータス：発行番号：件名：			
本文				

3.1.8 確認完了

		To	Cc	通知しない
宛先	プロジェクトマネージャ		○	
	プロジェクトリーダー	○		
	開発		○	
	品質保証		○	
件名	【プロジェクト名：システム名： 】 ステータス：発行番号：件名：			
本文				

3.1.9 クローズ

		To	Cc	通知しない
宛先	プロジェクトマネージャ			○
	プロジェクトリーダー			○
	開発			○
	品質保証			○
件名	【プロジェクト名：システム名： 】 ステータス：発行番号：件名：			
本文				

3.2 権限一覧

各ステータスで、其々のレポートに対する権限をロール毎に記述する。

3.2.1 ステータス権限一覧

ステータス	ロール			
	プロジェクトマネージャ	プロジェクトリーダー	開発	品質保証
起票	更新権限	更新権限	更新権限	更新権限
調査中	更新権限	更新権限	更新権限	更新権限
調査完了	更新権限	更新権限	更新権限	更新権限
修正指示済み	更新権限	更新権限	更新権限	更新権限
修正中	更新権限	更新権限	更新権限	更新権限
修正完了	更新権限	更新権限	更新権限	更新権限
確認中	更新権限	更新権限	更新権限	更新権限
確認完了	更新権限	更新権限	参照権限	参照権限
クローズ	参照権限	参照権限	参照権限	参照権限

3.2.2 機能権限一覧

機能	ロール			
	プロジェクトマネージャ	プロジェクトリーダー	開発	品質保証
新規作成	権限あり	権限あり	権限あり	権限あり
ダウンロード	権限あり	権限あり	権限あり	権限あり
完了承認	権限あり	権限あり	権限なし	権限なし
世代管理	更新権限	更新権限	更新権限	更新権限
削除	更新権限	更新権限	参照権限	参照権限
検索条件保存	権限なし	権限なし	権限なし	権限なし
アラートメール送信	権限なし	権限なし	権限なし	権限なし

3.3 ステータス毎の必須入力

ステータス毎の必須入力を示す。○が必須入力を示す。●はxDTSにより自動で設定される。表中の丸数字が表すステータスは以下の通り。各ステータスの変更者を併せて記述する。

- ① 起票：不具合発見者(テスト担当者)
- ② 調査中：プロジェクトリーダー
- ③ 調査完了：調査主担当者
- ④ 修正指示済み：プロジェクトリーダー
- ⑤ 修正中：修正主担当者
- ⑥ 修正完了：修正主担当者
- ⑦ 確認中：テスト担当者
- ⑧ 確認完了：確認者(テスト担当者)
- ⑨ クローズ：プロジェクトリーダー

番号	項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	備考
1	ステータス	●	○	○	○	○	○	○	○	●	
2	発行番号	●	—	—	—	—	—	—	—	—	
3	起票日	●	—	—	—	—	—	—	—	—	
4	起票者	●	—	—	—	—	—	—	—	—	
5	発生日	○	○	○	○	○	○			—	
6	発見者	○	○	○	○	○	○			—	
7	カテゴリ	○	○	○	○	○	○			—	
8	テスト項目No									—	
9	サブシステム									—	
10	不具合レベル	○	○	○	○	○	○			—	
11	運用への影響	○	○	○	○	○	○			—	
12	構成バージョン									—	
13	アプリケーションバージョン	○	○	○	○	○	○			—	
14	件名	○	○	○	○	○	○			—	
15	詳細	○	○	○	○	○	○			—	
16	再現方法									—	
17	調査完了予定日		○	○	○	○	○			—	
18	調査主担当者		○	○	○	○	○			—	
19	調査担当者									—	
20	調査実績工数(人時)									—	
21	調査結果			○	○	○	○			—	
22	影響範囲			○	○	○	○			—	
23	種類			○	○	○	○			—	
24	潜在			○	○	○	○			—	
25	対処				○	○	○			—	
26	対処内容									—	
27	仕様変更有無				○	○	○			—	
28	修正完了予定日				○	○	○			—	
29	修正主担当者				○	○	○			—	
30	修正担当者									—	
31	修正対象						○			—	
32	修正内容						○			—	
33	修正実績工数(人時)									—	

34	確認者							○	○	—	
35	リリースバージョン			○	○	○	○	○	○	—	
36	関連元不具合									—	
37	不具合原因			○	○	○	○			—	
38	不具合原因分析			○	○	○	○			—	
39	添付ファイル									—	
40	完了承認日	—	—	—	—	—	—	—	—	●	
41	完了承認者	—	—	—	—	—	—	—	—	●	
42	最終更新者	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
43	最終更新日時	●	●	●	●	●	●	●	●	●	

3.4 ステータス毎の表示ON/OFF

ステータス毎の表示ON/OFFを示す。無印は表示入力ON（表示がONで入力が可能）を示す。○が表示ONを示す。●は表示OFFを示す。必須入力項目は自動的に表示入力ONになる。

番号	項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	備考
1	ステータス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
2	発行番号	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
3	起票日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
4	起票者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
5	発生日							○	○	—	
6	発見者							○	○	—	
7	カテゴリ							○	○	—	
8	テスト項目No							○	○	—	
9	サブシステム							○	○	—	
10	不具合レベル							○	○	—	
11	運用への影響							○	○	—	
12	構成バージョン							○	○	—	
13	アプリケーションバージョン							○	○	—	
14	件名							○	○	—	
15	詳細							○	○	—	
16	再現方法							○	○	—	
17	調査完了予定日	●						○	○	—	
18	調査主担当者	●						○	○	—	
19	調査担当者	●						○	○	—	
20	調査実績工数(人時)	●						○	○	—	
21	調査結果	●						○	○	—	
22	影響範囲	●						○	○	—	
23	種類	●						○	○	—	
24	潜在	●						○	○	—	
25	対処	●						○	○	—	
26	対処内容	●						○	○	—	
27	仕様変更有無	●						○	○	—	
28	修正完了予定日	●	●	●				○	○	—	
29	修正主担当者	●	●	●				○	○	—	
30	修正担当者	●	●	●				○	○	—	
31	修正対象	●	●	●				○	○	—	
32	修正内容	●	●	●				○	○	—	
33	修正実績工数(人)	●	●	●				○	○	—	

	時)									
34	確認者	●	●	●					—	
35	リリースバージョン								—	
36	関連元不具合						○	○	—	
37	不具合原因	●					○	○	—	
38	不具合原因分析	●					○	○	—	
39	添付ファイル								—	
40	完了承認日	—	—	—	—	—	—	—	—	
41	完了承認者	—	—	—	—	—	—	—	—	
42	最終更新者	—	—	—	—	—	—	—	—	
43	最終更新日時	—	—	—	—	—	—	—	—	

3.5 サンプル選択肢

■ カテゴリ

ユニットテスト, 機能テスト, 統合テスト, 性能テスト, 負荷テスト, その他

■ サブシステム

画面, 画面部品, フレームワーク, モデル

■ 不具合レベル

レベル1(システムダウン), レベル2(機能未実現), レベル3(仕様差異), レベル4(気がかり)

■ 運用への影響

有り, 無し

■ 種類

新規, 劣化

※劣化は機能の劣化を示す.

■ 潜在

新規, 潜在

※潜在は, 以前から有った欠陥を新たに見つけたことを示す.

■ 対処

修正, 修正(SCRで対処), 修正しない(運用で対応), 修正しない(再現せず)

※ SCRはソフトウェア変更要求のことを指す

■ 仕様変更有無

有り, 無し

■ 不具合原因

不明, 仕様誤り, 仕様漏れ, 設計誤り, 設計漏れ, 実装誤り, 実装漏れ, 環境設定誤り, テストデータ誤り, テスト仕様誤り, リリース誤り, 再現せず, その他